

Racing Topics

★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

●フェブラリーSではコスタノヴァがG I 初制覇

2月23日(祝・日)に行われたフェブラリーS(G I)ではコスタノヴァ(牡5歳／美浦・木村哲也厩舎)が優勝、G I 初挑戦初制覇を果たしました。鞍上のレイチェル・キング騎手(豪)にとっても初のJRA G I 制覇で、2002年中山大障害(J・G I)でロシェル・ロケット騎手がギルデッドエージに騎乗し優勝した例はありましたが、女性騎手によるJRA平地G I 勝利は史上初のこととなります。

●小沢大仁騎手がJRA通算100勝を達成

2月22日(土)の1回小倉9日・第3レースではパレフォーコンが1着となり、同馬に騎乗した小沢大仁騎手(栗東・フリー)は、現役87人目となるJRA通算100勝(2282戦目)を達成しました。

●田中博康調教師がJRA通算200勝を達成

2月22日(土)の1回東京7日・第9レースとして行われたフリージア賞ではヴァルキリーバースが1着となり、同馬を管理する田中博康調教師(美浦)は、現役111人目となるJRA通算200勝(延べ1451頭目)を達成しました。

●騎手3名が引退

2月28日(金)をもって大塚海渡騎手(美浦・フリー／JRA通算186戦3勝)、白浜雄造騎手(栗東・フリー／JRA通算2034戦156勝)、鈴木慶太騎手(美浦・小西一男厩舎／JRA通算602戦12勝)が引退しました。なお大塚騎手は、美浦・勢司和浩厩舎で調教助手となる予定です。

★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

●ロードフォンスがかきつばた記念(名古屋)で重賞初制覇

かきつばた記念(JpnⅢ、2月24日、名古屋、1500m)は、3番手から3コーナー過ぎに内から先頭に立ったロードフォンス(横山和生騎手、牡5歳、父ロードカナロア)が、2番人気の昨年の覇者サンライズホークとの直線の競り合いをクビ差で制し、1番人気に応えました。3番人気のベイシャエスが3着、シャマルが4着、逃げたエートラックスが5着と、JRA勢が上位を独占しています。

●たんぼぼ賞(佐賀)はJRAの鹿児島産馬エイヨーアメジスト

九州産3歳馬限定戦のたんぼぼ賞(2月20日、佐賀、1400m、JRA所属馬は1勝クラス)は、2番手追走から3、4コーナー中間で抜け出した1番人気のエイヨーアメジスト(丹内祐次騎手、牝、父アレスパローズ)が6馬身差の圧勝を収めました。

●兵庫ユースC(姫路)はエイシンハリアー【各地の主要3歳重賞】

兵庫ユースC(2月20日、姫路、1400m)は、2番手から4コーナー手前で逃げ馬を交わした2番人気の北海道から兵庫への移籍馬エイシンハリアー(牡、父エイシンヒカリ)が、後続をクビ差で抑えて初の重賞制覇。スプリングC(2月12日、名古屋、1700m)は、逃げた2番人気のページェント(牡、父ドレフォン)が後続を7馬身引き離し、ゴールドジュニア(笠松)から中7日で重賞2連勝を果たしています。

★海外競馬ニュース 文・秋山響★

●サウジカップデー～フォーエバーヤングがG 1 サウジカップを制す

現地2月22日にサウジアラビアのキングアブドゥルアジーズ競馬場で行われたサウジカップデーのメインレースで、世界最高賞金(総賞金2000万米ドル＝約30億8000万円／1米ドル＝154円で換算。以下同じ)を誇るG 1 サウジカップ(北半球産4歳上、南半球産3歳上、ダート1800m)は、坂井瑠星騎手を背にしたフォーエバーヤング(牡4歳、父リアルスティール、栗東・矢作芳人厩舎)が最後の直線でロマンチックウォリアーを差し返してクビ差で優勝。1着賞金1000万ドル(約15億4000万円)を手にした。勝ちタイムの1分49秒09はレースレコードでした。フォーエバーヤングはこれで昨年12月の前走東京大賞典(G I)(ダート2000m)に続くG 1 連勝。海外重賞は昨年のG 2 UAEダービー(ダート1900m)、G 3 サウジダービー(ダート1600m)に続く3勝目となりました。

なお、この日は他にも日本調教馬が大活躍。G 2 ネオムターフC(北半球産4歳上、南半球産3歳上、芝2100m)を坂井瑠星騎手が手綱を取ったシンエンペラー(牡4歳、父シユーニ、栗東・矢作芳人厩舎)、G 2 1351ターフスプリント(北半球産4歳上、南半球産3歳上、芝1351m)をC.ルメール騎手が騎乗したアスコリピチェーノ(牝4歳、父ダイワメジャー、美浦・黒岩陽一厩舎)、そしてG 2 レッドシーターフH(北半球産4歳上、南半球産3歳上、芝3000m)をO.マーフィー騎手とコンビを組んだビザンチンドリーム(牡4歳、父エピファネイア、栗東・坂口智康厩舎)がそれぞれ優勝しました。